

旧網代町行政資料調査報告会



一橋大学大学院経済学研究科
高柳友彦



1、史料整理がはじまるまで

・史料整理のきっかけ

『熱海温泉誌』(2017年4月発行)の事業
温泉誌の執筆者として、熱海に残されている温泉
関係の史料の状況を把握する作業を行う。

・・・各温泉組合や旅館組合、熱海市など
→多くの史料が廃棄されている中、貴重な史料も
いくつか発見。

ただ、温泉に関する史料が中心であった。



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

『熱海温泉誌』刊行後、史料の重要性について、
多くの方から理解や賛同を得ることができるように
→熱海市に関わる様々な歴史史料の保存整理の必
要性を認識することに(温泉だけでない熱海)
(この点、熱海市関係者の後押しがありました)

図書館の倉庫に眠る様々な史料の存在

・・・以前から認識していたものの、2017年夏に関係
者を交えて、現状を確認

3



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

整理した史料の概要

①市史編さん史料の特徴(段ボール13箱分)

網代に関する史料以外にも他地域の史料が含まれ、
網代村関係が全体の6割弱、伊豆山関連が1割

・・・近代以降の行政文書が多く、明治大正のものが
約4割、残りが昭和期の史料で大正から昭和
戦前期の史料が最も多かった。523点を目録化

内容 網代の学校や土地、震災などに関する史料、
大正から昭和戦前期の網代における漁業関係史料、
アジア・太平洋戦争期の軍事援護に関する史料

4

②網代小学校借用資料(2018年9月)

歴史資料管理室の調査によってその存在があらためて確認された史料。56点を目録化



明治から大正期にかけての網代に関する史料

・・・平井正之助や菊間敏次郎らの事業や家に関する史料

5

③網代公民館(2019年1月)

今日の会場である網代公民館の1階の展示と2階の押入内にあった史料

主に昭和20年代、合併前の網代町の社会福祉協議会に関する史料になりますが未整理です

⇒史料を食べる虫(シミ)が多くついていました



燻蒸(薬で史料についた虫を駆除)する必要

・・・施設や費用の関係で、殺虫剤を入れた袋の中で虫を駆除しています

6



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

地域の歴史をどのように理解し伝えていくのか？

2017年発行の『熱海温泉誌』

今回の史料整理の事業 など近年のとりくみ

- 他地域に比べると「地域の歴史」への関心は低い
ただ、昨年開設された歴史資料管理室を中心に
史料の保存・整理事業の端緒がみられる
(網代では、「あじろ語り部聞き取り会」などの成果)
- ⇒地域の歴史を残すための新たな市史編纂事業
史料の保存・整理、活用を促す事業の創設

7



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

最終的には地域の歴史史料を保存、活用できる
博物館などの施設の設置が目標となる

まずは、地域の歴史史料の発掘を行い、地道に整理
をしていくことが必要

・・・文書類や様々な史資料(道具類も含めて)

今回の報告会では、約1年間の中で整理された史料
の中から、一部を紹介していきたいと思います。

8

旧網代町行政資料調査報告会

近代の網代と漁業

一橋大学社会学研究科大学院生 長谷川達朗

1. 自己紹介 兵庫県閏賀（ウルカ）集落での経験

兵庫県宍粟市閏賀集落を事例に1930年～1970年代の山村について研究

→地域の古老への聞き取りを駆使した研究＋実践

- ・大学の研究室や図書館では得られない知識の存在
 - ・研究者が語る歴史／地域の人びとが語る歴史
- ⇒地域の人びとと研究者が手を取り合い、共に歴史を紡ぐことの大切さ

2. 漁業関係資料について

網代の漁業に関する資料

総数…79点 内訳 近世…12点

明治…7点

大正…29点

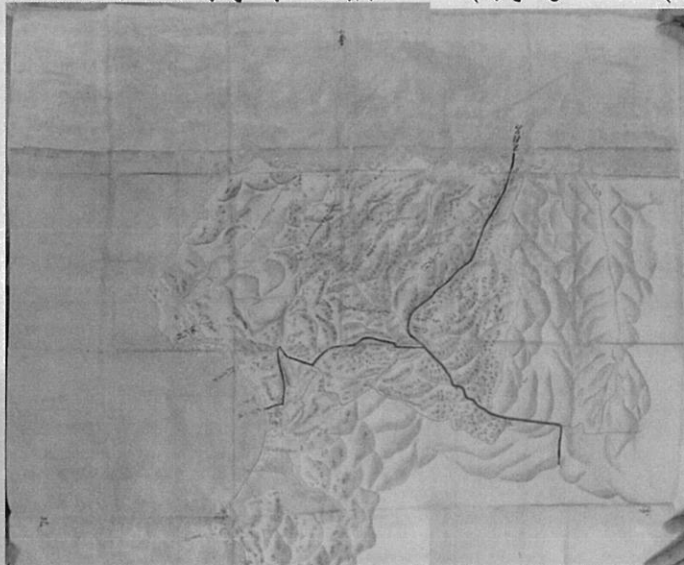
昭和戦前…22点

昭和戦後…1点

年代不明…8点

⇒定置網漁業が栄えた大正～昭和初期の史料が中心

伊豆國賀茂郡下多賀村宇佐美村与同郡網代村
山境并漁獵爭論裁許之條々（貞享四（1687）年）



- ・網代村、宇佐美村、下多賀村3ヶ村の山、漁場の境を取り決めた裁許状

→貞享四年の裁許状は地域で守り伝えられてきたもの

⇒歴史史料は偶然残ったのではなく、村の人びとにとって大事であるが故に「残された」もの

網代と漁業の近代史 —『網代郷土史』を参考に—

- ・江戸時代に定置網（根拵網）がはじめられる
- ・明治12（1879）年 根拵網古網場の漁場料金二千円を学校運営基金に、利子所得を学校運営費に
 - 根拵網の経営に多大な資金が必要
 - 経営者は競争入札で選定、外来の資本家が経営に参入
- ・明治35（1902）年 漁業法施行に伴い漁業権問題の勃発
 - 漁業権は村有となり、村民の福利厚生に貢献
 - 大正・昭和初期までは定置網全盛の時代
- ・昭和初期は漁獲量の減少や恐慌の影響で財政が苦しくなる →町税の徴収開始
- ・昭和19（1944）年に網代大網組合を結成
 - 漁場の賃貸借を通した外部資本とのつながりが絶たれる

- ①定置網漁業の重要性
- ②根拵網の経営が網代村財政と密接に結びつき村財政を潤していた

『網代郷土史』の記述

⇔大正～昭和初期を単純に栄えた時代とだけ捉えていいのか？

→漁獲量が多い豊かな時期からこそ起こる様々な問題があるのでは？

Ex)漁場を賃貸する外部資本との関係

今後に向けて

①漁業資源について

人為的にコントロールすることが難しい

⇔造林や伐採を恣意的に管理できる山林資源とは大きな違い

→競売が困難な不漁の時期をいかに乗り越えるか

→管理することが困難な漁業資源からいかに安定した収益を得るか（外部資本の導入、特売／競売）

②漁村として

従来の歴史研究は農村が中心 →米と養蚕にばかり目が向けられた

⇔農村とは異なる経済事情や論理で展開する漁村の歴史

③資本について

大規模な定置網漁業を経営するのに外部資本を導入する必要性

→農山村ではあまりみられない動き

⇒外部資本が漁村に入ってきたことによって村内の社会関係はどのように変化したのか

旧網代町行政資料調査報告会

-戦時下の網代町-

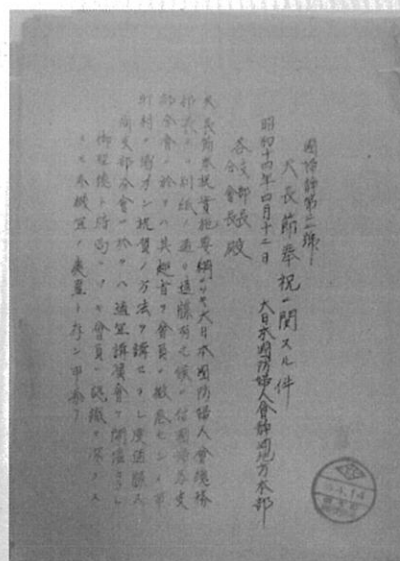
発表日時 2019/02/09

一橋大学経済研究科修士課程1年

仁藤 将史

国防婦人会関係史料 表紙

『天長節奉祝実施要綱
につき大日本国防婦人
会総務部長より別紙の
通り通牒有之候〜』



国防婦人会関係史料

- × 網代村において昭和14年3月銃後奉公会が設置され、その後4月に田代郡分会からの通牒という形式で国防婦人会される。
- × 網代村で独自に結成された銃後報国会が国防婦人会という全国組織に吸収されて国防婦人会網代村支部となる。
- × その後、内務省が管轄する愛国婦人会と合併し大日本婦人会となる

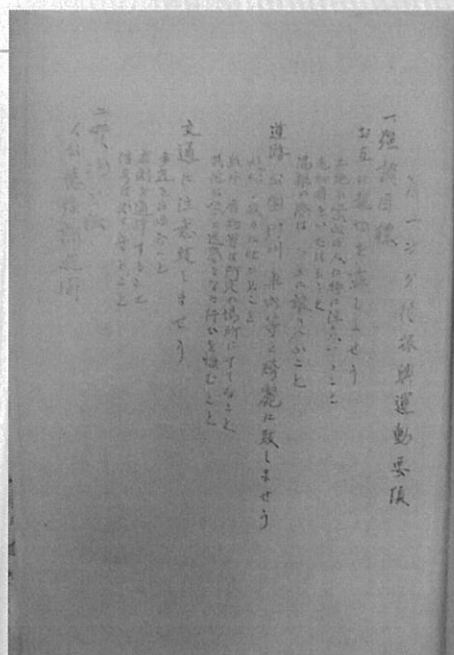
国防婦人会関係史料 国防婦人会要綱

- × 全国的に適用されていた要綱がそのまま使われている。
- × 組織の構成要員が分かる史料が存在しないものの、感謝状があるため網代村内で国防婦人会という組織が受容されていたことが分かる。

国防婦人会関係史料 第一次公德振興運動

強調目標

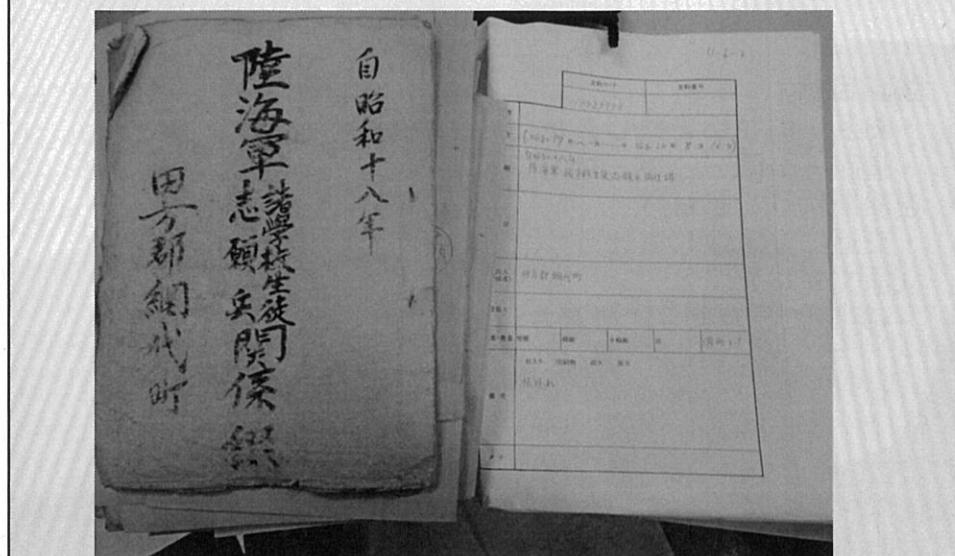
- ・ お互いに親切を蓋しませう
 - ・ 道路・公園・口川・社内等を綺麗に致しませう
 - ・ 交通に注意致しませう
- (原文ママ)
- 実際にどのように運営されていたのかは不明。



徴兵関係史料について

- × 昭和17年（1942）の本土空襲以降、慢性的なモノ・ヒトの不足に悩まされる。
- × 今回の史料では主に1944年以降海軍（横須賀鎮守府）からの通牒を発端として徴兵の準備を始めた。
- × 今回の発表では「どのような手順を踏んで出征していくか」というテーマで史料を配置した。

徴兵関係史料 表紙



まとめ

- × 戦時下の様々な運動の中で戦争目的だけではない活動が生まれてくる。
→「銃後」の社会の役割の評価
- × 徴兵の流れの中で地域の「顔役」の人達の果たす役割が大きい。
＝単純な上意下達ではない。